



家庭や地域で育まれる心

今治市立亀岡小学校長 柚山 明

亀岡小学校グランドデザイン（教育計画）の下段は、学校の教育活動が家庭や地域という土台に支えられていることを示しています。その中で、家庭は「心のやすらぎの場・習慣づくりの場」であり、地域は「ふるさとを愛する心を育む場」とであると定義しています。夏休みに入りましたが、約40日間の長い休みは、家庭や地域の教育力を発揮していただく貴重な期間であります。

児童は、家庭や地域から多くのことを学び、豊かな感性を培っています。以下に紹介する俳句や詩（地域文集「うしお」より）には、そのことがよく表れています。

【俳句】	【詩】	
たね川でかもとなの花 あそんでる（4年生）	つくしが生えたよ（3年生） 家のおにわでつくしを見つけた いっぱいあったよ さむいのにもう によきによきと生えていた もう春なんだ、とおどろいた 上のぶぶんがとじていて みどり色のつくしがおいしんだって ぼくは食べるのはすきじゃないけど	とるのは楽しい いつもひいおばあちゃんにプレゼントしている ひいおばあちゃんはつくしのことを ほうしこっていうんだって 「ほうしこを食べると体にいいんだよ。」 と言っていた 今年もたくさんとってあげたら よろこんでくれるかな つくしを食べて長生きしてほしいな
雨上がり一緒に歩く かたつむり（5年生）		
タケノコとカくらべの すもうかな（6年生）		

これらの作品を読むと、まさに、家庭が「心のやすらぎの場・習慣づくりの場」となっており、地域が「ふるさとを愛する心を育む場」となっていることが分かります。

大人になると「また暑い夏がやって来たな……。」と感動も薄れがちですが、児童にとっては、今年の夏は今の学年、今の年齢でしか経験できないかけがえのない熱い夏です。どうか、児童が生き生きと、そしてのびのびと活動できるよう、家庭や地域で温かく見守ってください。

瓦粘土でアート 毎年恒例の『瓦粘土作品づくり』を実施しました。この行事は、「地域の伝統や産業、瓦粘土に親しみ、工夫して表現することの楽しさを味わう」ことをねらいとして、菊間町内三つの小中学校で長年にわたり行われています。テーマは、1年生「どうぶつ」、2年生「水にすむ生き物」、3年生



「想像上の動物」、4年生「おに」、5年生「自分の顔」、6年生「埴輪・土器」でした。児童は、両手に余るほど大きな瓦粘土のかたまりを、力いっぱいこねた後、手指や道具を使って作品に仕上げていきました。できた作品は、乾燥後に瓦屋さんの窯で焼いていただき完成します。指導してくださった柚山さん、菊地さん、本当にありがとうございました。

上手に植えたよ！ 全校児童が田植え体験をしました。指導者は、「JAおちいまばり（菊間）」の山本さんです。ほかにも、4～5名の方が補助をしてくださいました。また、児童に苗を渡す役割を、PTA生活環境部の方に手伝っていただきました。田植えをする場所は、地域にお住まいの大舘さんが管理されている水田です。学校のすぐ近くにあるので、田植え体験の時間を十



分にとることが出来ます。いくつかの学年に分かれて、時間をずらしながら体験しました。低・中学年は20分くらい、高学年は30分以上も田植えをさせていただき、どんどん上達しました。稲の品種は、愛媛のブランド米「ひめの凜」ということでした。秋には、「稲刈り」体験もさせていただく予定です。